

第19回国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時	令和3年8月4日（水）午前11時00分から正午
場所	市議会委員会室
出席者	永見市長、竹内副市長、雨宮教育長、宮崎政策経営部長、藤崎行政管理部長、松葉子ども家庭部長、大川健康福祉部長、葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長、黒澤生活環境部長（健康福祉部ワクチン接種対策室長）、門倉都市整備部長、江村都市整備部参事、矢吹会計管理者、橋本教育次長、内藤議会事務局長、佐伯オンブズマン事務局長、玉江選挙管理委員会事務局長、田代監査委員事務局長 立川消防署：玄海予防課長、濱渦国立出張所長
付議事項	（１）緊急事態宣言延長に係る市の対応について ①国立市の感染状況について ・東京都モニタリング会議資料（資料No.1） ②自宅待機者等への支援について ③国立市医師会長コメント（資料No.2） （２）その他 ①庁内における感染症対策について ②立川消防署からの情報提供 （３）本部長指示及び対応方針について
主な内容	（進行：大川健康福祉部長） 1 本部長あいさつ（永見市長） 東京都で爆発的な感染が広がっており、市内でも若年層を中心に感染者が10名単位で増えている日もある。職場内、家庭内ではなく感染経路不明といったケースも増えている。感染拡大を防ぐ対応について議論していただきたい。また、市民へのサービス等に影響が出ないように市役所内で感染が広がらないような注意喚起を地道に継続していく。
	2 議 題 （１）緊急事態宣言発出に伴う市の対応について ①国立市の感染状況について（事務局：橋本健康づくり担当課長） ・東京都モニタリング会議資料（資料No.1） ②自宅待機者等への支援について（葛原地域包括ケア・健康づくり担当課長、伊形福祉総務課長） ・自宅待機者等生活支援事業 新型コロナウイルス感染者で自宅待機となった方を対象に生活物資を提供している。休日についても日保ちするものを準備することで、サービスが滞らないような対応をとっている（伊形福祉総務課長）。 新型コロナウイルス感染者で自宅待機となった方を対象に自身の健康状態を把握するための器具であるパルスオキシメーターを貸し出している。（葛原地域包括ケア・健康づくり担当部長） ・在宅要介護者等支援体制整備事業 等（葛原地域包括ケア・健康づくり担当部長） 要介護者を介護する家族等が新型コロナウイルスに感染しても要介護者が住み慣れた地域で安心して暮らせるために必要な療養体制を組めるようにしている。 ・今後の課題（葛原地域包括ケア・健康づくり担当部長） 50代以下の若い世代の在宅患者への医療的な対応が喫緊の課題である。急いで対応する仕組みを整備していく。 ③国立市医師会長コメント ・資料No. 2 ①庁内における感染症対策について 職場内での感染を予防し、市民サービスを低下させないために次の取組を庁内でさらに推進していく。 ・テレワークの推進 ・時間差勤務の推進 ・執務スペースの確保 ②立川消防署からの情報提供 【大川健康福祉部長 質問】 都内の新型コロナウイルス感染症の患者が119番通報（救急要請）したところ、約100軒の医療機関に断られたという報道があった。また、そのまま家に帰らされるのではないかと不安の声が市民から届いている。新型コロナウイルス感染症にかかる救急搬送について、消防署から情報提供いただきたい。 【濱渦出張所長 回答】 新型コロナウイルス感染症陽性者からの救急要請については、保健所と連携して搬送医療機関を選定している。搬送医療機関が決定するまでに時間を要しているケースや、保健所の判断と本人の同意の上で不搬送となるケースもあるが、いずれの場合も救急隊が要請者の同意なく不搬送を判断したり、自宅に帰らせることはない。
	3 本部長指示及び対応方針について 感染者の数字だけを見ると切迫感がある。 様々な不確定要素がある中で感染拡大しているため、確定的な方針が出せないところではあるが、市民や職場内における感染症対策について注意喚起するとともに、今後の状況を注視しながら臨機応変に新たな対策をとっていく。